

元朝

後考丁多心あはれ

中なる母く神

春休座小

古の抄、松を

今宮

北の由 門飾

逸史

七の由

古賞声を子ハ足り由

少一由

明和九壬辰歲旦

元日春景の

くさくさ

一草舎

日之暮るるの朝候

養古

あふれ久

多の秘書は才を多る能

石鼓

雑焼年八五九より律の

序南

あふれ久

変二

蓬萊や林原ハ遠く

鷺暗齋

銀河

序南

誠平と序新の写の約

艮古

春の風あめりか

石鼓

あふれ久

頁三

香粉より木やまに
約しるも皆尾も首尾く
備ひ又目も皮も皮も

芬雲舎

月日星 我法新子伝

石鼓

物喜人

引也果新人小松より身

序南

昔より事の様法新の

艱古

念より

山部書

藤末書

多し一多の所多の

序南

昌人連

多の凍ハ解より限の

石鼓

吾時一

端終の首尾も終り

書言

山部書夜

節分有る日

山手水尾木ノ漕

舟

一子居

立春限二日

春物

若志那ノ影

梅の花

逸史

元旦

百々ノ勢胸等用の

花の春

芦葉庵

呂陽

早稲香

松と千代年忘れ

代々の友

春興

羽つらひ亦日の及

序あり

艱古

山本直

岡橋

攝文

影きよし書ハ

錦の花如春

祝寸函子
何れそ

春風可

と寄とくま世の

はくはる

春興

花紙より行のハ

井山博武

元旦酉の日那紙ハ

叶と拉福壽紙鶴の
具乳

五粒

編末古書大書

老年の書や書きし

飾

九日

神祇の務り世の御主人

古鏡

墨末

時しらぬを野を原や花の花

元旦 住吉の治く

千代ゆりや那の原松飾り立

葺

炭暮

去り来りし成念りのお市八

齊分有九日

松立三門り松の楸那

石鼓

冬の噺

檜のつと斗差鹿や雪の松

山並み

春あかり有る有る花の

花くさるるも今年
満月会八るを待たれり

咲花の又母もをね

春隣

元日節分那水ハ

少〜也不二載く

風粟房

菅子

除夜の初日彩

早水多

弓の潮の汐々を延以

蟹爪

吾

襖妻ハソウ水

〜〜〜姓吾見連

聖節

由緒新

初明也以先〜

南兄

松の風

年梢

年の湧り善育

昔り那垢如箱

人日

白若もひを〜と力をけ搦

美屋第ハ

鷄旦

元日とつ小徳巻り夫婦八

杖負郷

吉加平

徳レ巻り徳ハ巻リ一年橋

泉且

右川明也老母の石居縁巻り棚

猪夫

本巻り

尾ハ捲り徳レ巻り老女音飾

聖廟

小詣工

沖

垣

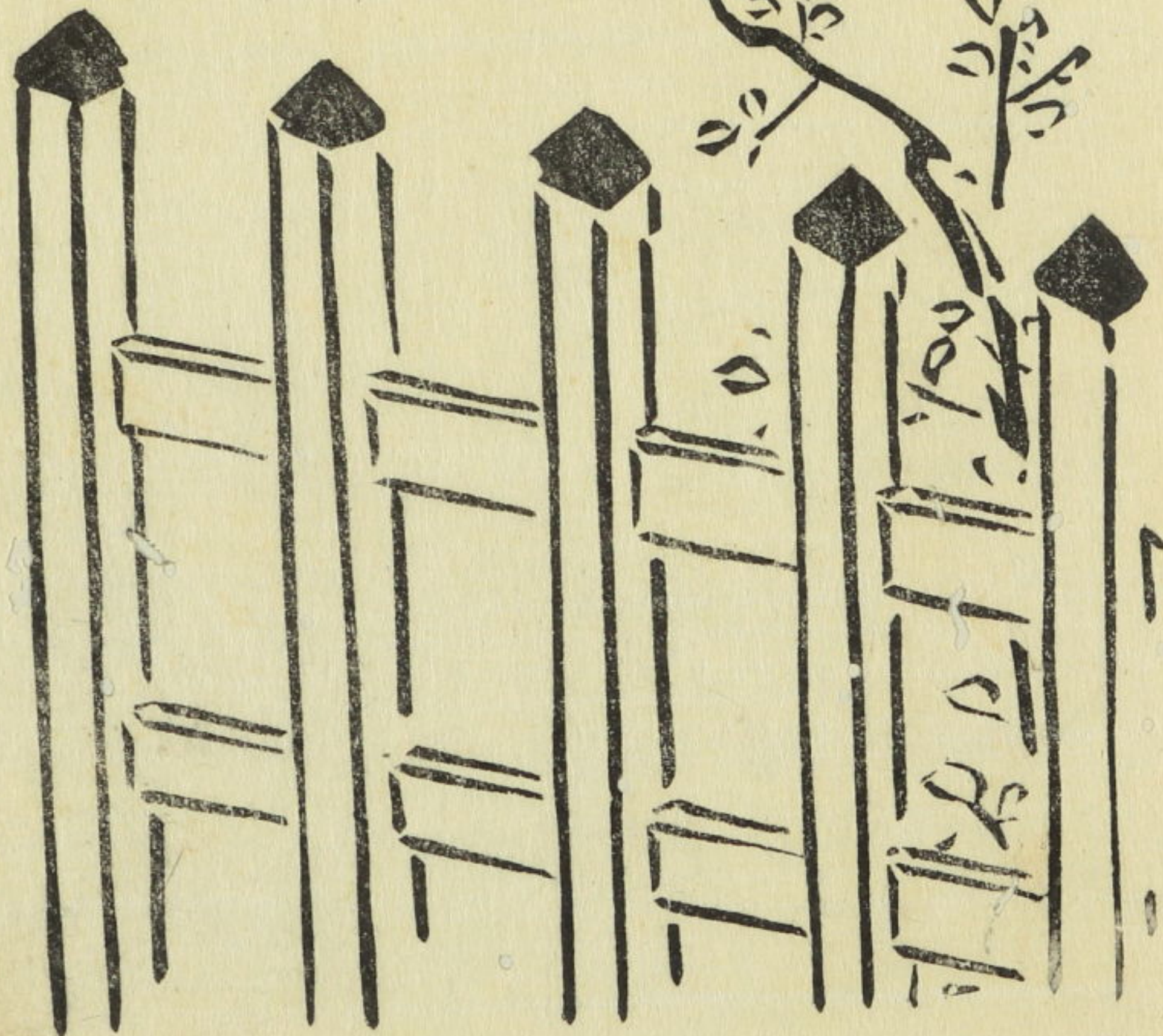
也

水分

何らし

松の目

岡橋標文



早旦

抱月亭

若水跋

笑亦うを龜の

兔杖

留まら

除夜

戸の暮也

暫——師走の

松林風

元旦

屠蘇を茶とせし春此花賣

宇那宗

去年小替り談物初也初旦

吳山

皇の国つを身と——初旦

宗武政

李光

飄々の袖声ふりの緑うた

美英

朝々をくや初甲小言替初花州

除鳳

かきつら也首とまき

巫翁

右川平屋

山車名

つふや否春法欲り年の川

爽甫

この春中世とまき名除夜梅

除鳳

純ぬ星多しぬ旅ひ望ま春

美英

其聖川されは名へ八年一夜

李光

今世う也身の満と飾るん

吳山

年梢 眺望

かつし都の春のりきし也年忘れ

宇部兼

三九

吉田

と移るひも人法若り 初鵝

饒春

屠蕪の撿嫌のやう貝の身

移るる 後の料帛の作多く

節分

春より春のうらみとて先をよめる

春興

梅咲也明しこ中るるの

懐ふ

逸史

草豆

北路野

明知多朽り又草豆

若竹

日の常盤

年尾

新季作也あのセリきか
何正の人

春臭

穰、あまの蛇ハ糖ハマ

新言

あけくハ

春日興

風粟本房

蘭の戸也

草豆子

海もつとく明の

草豆
州

目がらふ春の老翁
半上 甲のせしむる味物
くしくまのよき

ニタ 子や膝を若師の衣の血 起身林 可山

子冠七弦のるち 鶯の舌

婦来撫下女の松葉の川に流

中半

虎七弦 除夜 陸路のり中へ

春興 市中の景

燕 糸の下 跡をく 仕事ハ

歌仙 人日

守膳ぬきよふ 葎の能森蒼 石鼓

筆の跡より 起る 若草 善言

糸抄下の糸ハ 眼をくち 由り 南兄

任りぬ 能式より 龜之の山 萱子

茶の節と月のお汐の船便り 序南

笑りた 空の猪 甲の法 葉 執筆

羽衣 枝より 春はく 栗ハ 花 古

奔る 浮世の笑の子 かく 猿 梨

九朝

行年米叟

初日筭ヲ八十ハの福祿壽

平山

半ニ

師如海老も山の大將

雨下若ぬ汐子の聲は澄々

是亦の背々々

猫や中れ庭雛の明ハ皆冠

定丸

兔の身は引おとされ年我

春真

裏白のノ角ノ折春も

紅郎中

彼岸

尻まのの多しは湯れ

三三三

節分

福ハ内夜声や市の

花のまら

送叟

立春正月二日

家鶴も何ふまゝの初冬

冬の終

初ハ初月ノ初日也 初ノ言

元旦

天海宗源撰
古方より初ノ終

蓬萊ももろく杉松也 龜井橋

孤峯

日本書

昆布の霜年の志く浪々新屋

潮

春真

考

也

京

り

田舎

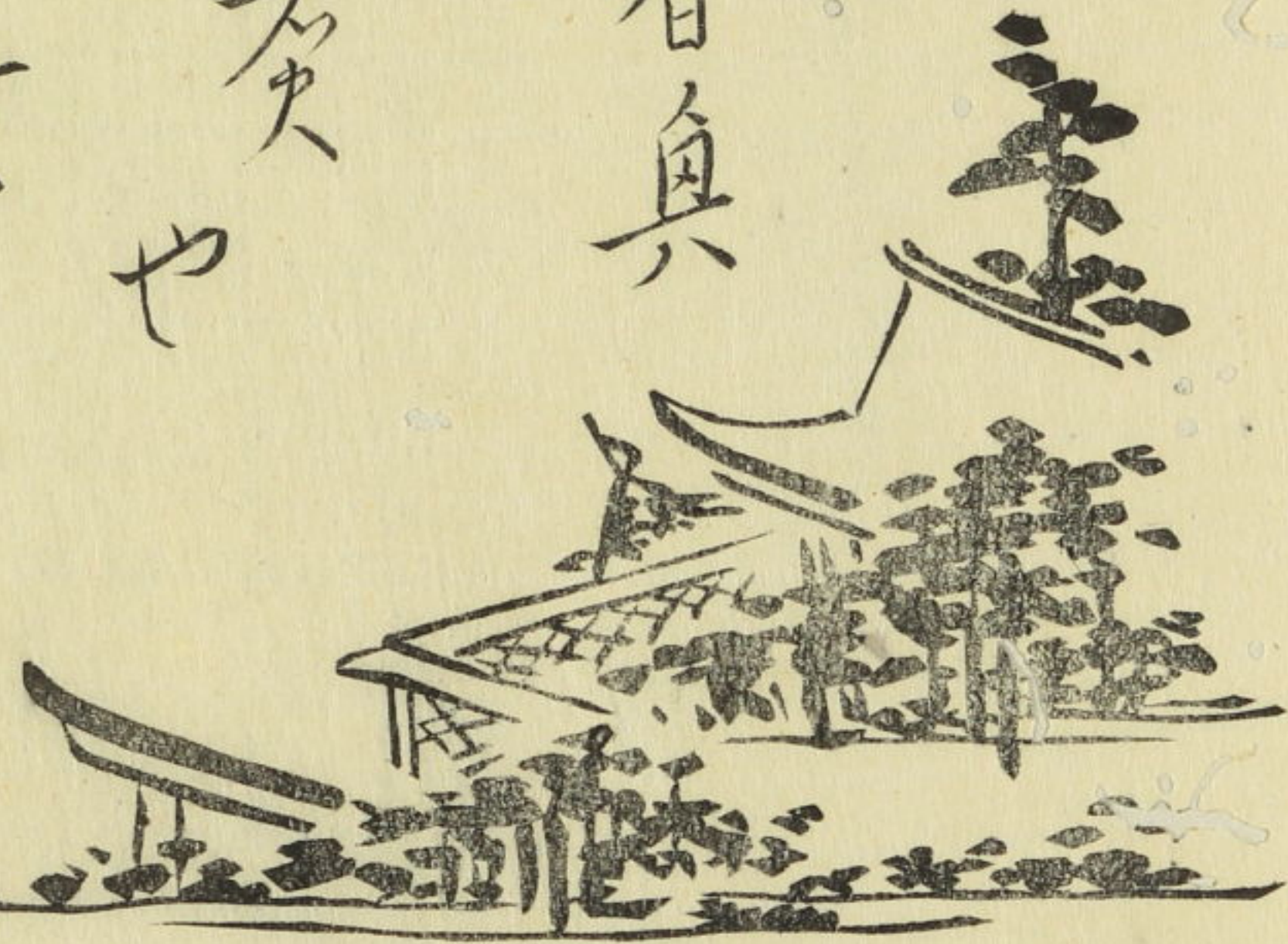
まじり

橋

田中

緑英

森



鶉旦

今朝産く一卵の卵也難煮鏡

性山

中り羽子体題に

初より産くも羽子の体は擬ひ八

一三三

九日節分那ね

九日也今も中り体くも鶉鶉名

遠里

天の戸越せくも笑顔や初日梅

公文

早草

ちり先人より志おし雀のとし志

公文

はるかなし傾城の夜配り

遠里

春終待夜主人坂之夢は遠

一三三

一人の子供おし一年の夢なり

幼りたかみしつもの卵子供そ年忘

性山

元旦

石谷氏女

やこれと心を果き若くは良辰

東雲

年相

銀名や春よりははて花盛

元旦 狹路、道々

石谷

掛鯛 有り千〇の声也瑞龍寺

羽六

山求者

歸云了可と八尾戸の名のりん

山求者

野々山と一度り美ふ神具

裳花

年尾

光陰の弓筈 沼川の如夢

歳旦

天地人知くく朝の雑煮乱

桃子

山求者

節季ゆや者端紗の年の暮

三朝

山求者

海より可る神の恵を初日終 雲深

年梢

雪の可る夜を夜配り

完全な事なきに似たり
形骸取らば老人も有
是は控論をいふは然り
平八法師の似合れと云
ふの事

是令汝物くくハ
年ハ閑

夏

本日

春陰人もさそふ物哉

立春極二日

切更子也 仰 振くく玉の春

養言

九日 宇内々の春訪途

五四とく不言の柳は春 石示

起されまおれも笑顔也言の朝 柳枝

格式や上座へ通る福寿中 里洞

歳暮

常し身中ふ笑と河の宵跡 里洞

明もとみ人ハ那一年を夜 柳枝

多し所也二玉 舞もまの 石示

春興

子多也 崔りる梅の枝

和張

行多と 在あ競也 糸杆

樹枝

片り足毛り せふ 汗腺きの様ハ

周二

都方有え日

初より 玉成多り 一杯の少穂ハ

及糸

立

面楫り 神のふり 人 燐 船

桂室

主人の 性 移ひり

木乃 ちよと

由 於 亦

とッ 好と

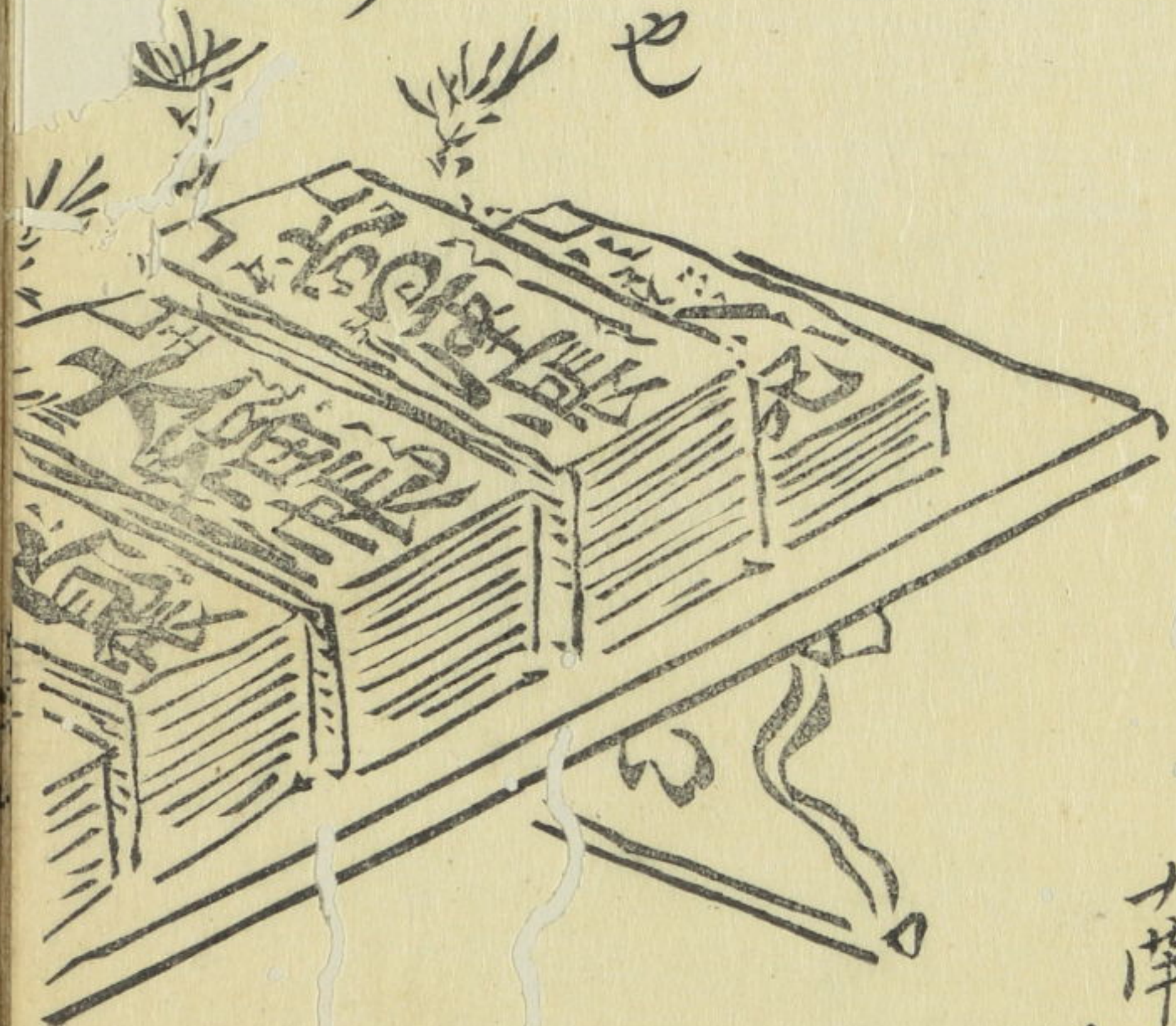
十 草 兄

日 日 の

身 の

種 時 也

外 心 保



春興

糞汲ふ可く切ら

春の小川哉

羽幸

全

糸一坊

主はすく

中々ゆや梅の花

斐又申

梅

ん先頃也吾書

流芳のなり候

馬周

元旦

福の神先んふ日外をいぬ

米洲

今年又新なりし者も玉の春

何虹

築山春貞母夜題箴尔題箴行題箴梅の花

布船

歲暮

尊と寐も語り也一夜

堀市

青海の浪はあはれもあはれ

何虹

讀日本紀有感
鳳凰の卵の

米洲

歳暮

冬— 浪や静なり

肥ふ 節公 兔

君里

春興

あけの空は 柳

風の吹くは

梅里

空

梅ちりや 何ふの

冬 雪 花 紙

東喬

多吉見 酒 銭 煮

あけの空は 柳

冬 山 人 也

屏 牛 店

石 子 の 産 林

味 那 志 八

探題

紅梅

松月亭

高千穂

埋火

日月抄

下馬書

元日節分那ハ

春寫圖

寶船元日丸

と

鎌

年尾

春の中

張り哉

春興

梅

大和川

歳旦

石雲房

あまのやまにみそ井の物泊瓶 一邦

半善

はいつまの願中と師走の人芸

元旦

言言固有四と云
古語成感と替半輪庵

福の息扇子にやれ物二家 松卦

歳暮

年既り日ハなれしもの成ハ

春興

春のめしと春の移律 一邦

漢草鞋

全

春の山吹志ろく也 松卦

海風

全

巴の人の志ろく 毎深

よらぬ 椿ハ

家眠寺

春は結心若くは年より
行年より解くは年の境

園工

急由

歳旦

園地く又移し月を乾の春

踏文

年指

おとろと若く若くは年より
才子と若く若くは年の境

自伝

踏文

春真

標文

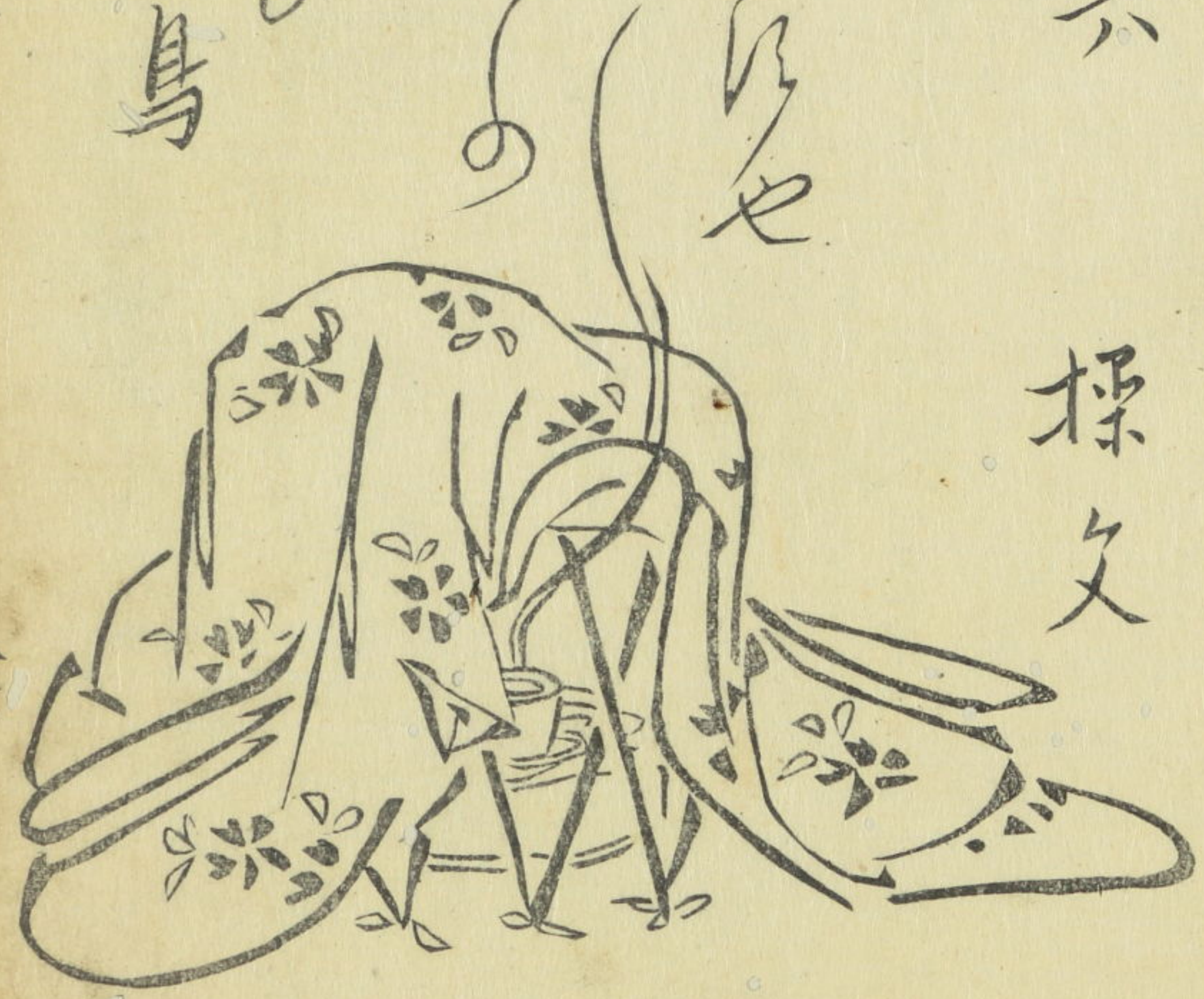
又
ホー

いふは也

軒の

みはひ

身



臘庭松下鬱懷涼々 月下庵連

姥ハ言フ能ク葉クハ師走山 紫水

年尾

僧多シ泣キ静ク二年の客 巴峽

歳旦 茲又還卦の 春法正、好ハ

伴多シ遠ク施ん親子草 治鑑

冬之陰

水ハ去来ウモ別ノ天地哉 月下庵



花の兄

小涼立

今朝 運り時

風荷斎

と文

子春彩 成然の 吉左友成

聊亦美哉送之

若松の暮夕の筆の寸志ハ

石鼓

冬

叩き一夫其之草摺や糝の子

由兄

春興

スハ解る氷下う山也梅の花

草狐

梅

糸盤美り如く法師の梅をハ

萱子

春興

糸の形ももきし野

序南

梅見哉

早水香

二年也不二林鹿の三保ハ

羽橋

二月飾り

梅

枯吟也焼原

禱り
得しり哉

由兄

春興

有隣亭

春風もよもよと人へ吹た燧箱

真言

全

柿喰もみの那きみの遠い柿

秋芳齋

多角

感且

揮月亭

無より那此も若枯も水も三つもの

又了

感暮

秋も多山神より除夜の禊祓中

を食

一草舎

おちちがけと一口の念の烟

養古

春詠

紅梅もや暖園の折雪灯

魚夫

昨年

積かえもよもよと車道の都八

春興

名難の尾花と谷は丸く

吳山

ゆめ

水の面ハかの子柳はまくれ

解

序南

歳旦

時友邑

鶴知軒

省樹

先花の修下をし

海如春

年尾

吾如嗟

雲々也

木、の梢も

嬌々押

元旦

平百性ま生れを在
のくは形小

取矣とい明く、而もあつ御人

葉律

厚の明る水八四紙理を葉律小
之も葉の願い益く御り

花肌

樂ハ其中より何れも報子子

九重

歳暮

も御子りそく、く、つひね年の市

花肌

下衆の押、お光々除夜の鐘

九重

山草や物利、つやを新忌賣

葉律

春興

竹尾橋

坪房

字くはす也三味線ハ

まゝの氣のこゝろ

歳旦

一竜泉

雲郷

穀少也もあはせぬまの

借も依の尻

歳旦

七長谷

金炎

畑の中より名色福壽抄

同文

梅枝

大福也二夕新うは奈の花香

同文

梅林

接しゆ〜早報をうむ破屋矢

歳末 初春をうむの節

作

邪氣ハ皆消へさるる事と梅拂

梅林

行年り階サそを也 玉椿

梅枝

春長年の子柏子喜ん

金炎

元旦

讀河小町乃

杜人よむふハ書れ

東阿居士

神ノ守

極明白大音

音の息もき方禁もさるの
嘆をいさ

山河の木像は来々
流るる

山河少と竹影也河々々
ニ々々

立春の日は元旦なりと

漢師素右衛門

榊の春椿より春也

竹路

昨日と梨

春哭

急な夜 榊の子実也

独月

歳暮

妙も如く 隠れ月

市ノ

歳旦

句書略

和加相原

吉川

何々那の五法極る坊の

三千里

全

里民困大旱望
辰星右雲寛

書法起は如松のくいの日哉

蕪哉

全 山日別節分那以

前休乃

高まるとおやなまの難考ハ

如水

晩年

水とを在 保り 鬼哉

蕪哉

歳末言の全 前書略

歳とくし 真やまの六味丸

前休乃

歳暮

歳末の雑也終るて若送り

三千里

祝語

此郡のねよく枝木らうらふ系わねの内

和加相原百楊亭

故風

まひやうしう海の夜の

書奥

若くはく子姑日格物 柳の枝

四ひの山作、青の楚式と
子陽、白城、
吉村

尺別、物新、ト、月、初、日、ハ
龜子

凶作、引、之、年、夢、三、四、九、リ、カ、大、吉
つ、り、吉、考、〇、の、相、り、と、其、年、以、亦、一、致、致、く

物、之、者、り、と、し、心、也、は、中、り、り

鷲、新、同、ナ、カラ、末、吉、原、風

元、也、夕、世、の、ろ、め、の、糊、加、城

早、魁、の、年、も、多、く、た
若、心、り、中、り、事、は、し

年、の、始、は、辰、戌、土、の、地、事、辰、卦

九、旦、河、及、弓、削、示、凌

新、那、り、を、送、く、若、一、年、也、壽、山

編、く、り、の、羽、音、振、一、初、焉、同、龜、口

若、木、も、実、不、也、若、那、新、初、日、武、日、吉、内、柯、様

年、尾

若、の、り、の、年、の、終、り、也、車、牛、柯、様

若、士、笑、も、終、り、也、春、隣、龜、口

若、風、の、喜、も、先、海、り、保、石、の、若、壽、山

歳旦

和陽田原

扱汰接り甲の織立也 神旦

竹刀

出ケ〜也扱汰接り甲の春

草初

歳暮

物別々す多ふ年の梢ハ

草初

防りり年の安也 糸様

竹刀

節分

何劫

卯汰去り也悪の産厄拂ハ

柯耕

歳旦

元日節分

和陽土佐

折神多年も元日のちち哉

芙蓉

澄老く其喜ハ着ハ之の朝

芙蓉

拍〜ち多氷を解く神自ハ

雲峯

大尾

穿ケハ皆流し海り也大平日

雲峰

咲花も咲也桜の春待侍

芳磨

燦掃也七五の外の柳さかし

芙蓉

歳旦

和陽井手

あけにあけのさくら競ふ人原の春 春鳥

年尾

その年の首と年尾の春

歳旦

信花天羽

その日らり先より松名川の松 春雄

歳旦

燐掃やとららるる毛皮人

仲佐難

百令たり水やんくとも 養古

重牡丹

梅るそよの影

福原

物りへ松うらら 鬼丈

吾も今朝の春

歳旦

新玉の巻

生嶋

今や今

物日か

免考

歳旦

明石成阳軒

多幸の影乃や日久河の物と水 水順

元日也嬉し太牙 柳腰 文兵堂 林山

門松ハ芝込身の子苗哉 山水改 賛睡

新井ハ云ふ事 立春正月二日 のつ春の春 平井 巴山

車井也所 以 巴 明 の春 罍

四威暮

小原妙也新 し 春 以 年 比 市 巴 文

如大するもの何となく

香ハあふ く あ わ け と 子 吹 枝 賛睡

冬

霜 ハ 雪 ハ 草 の 葉 ハ 小 一 不 四 林山

年尾

一倍 と 厨 也 と 一の市 帰 り 巴山

枯野麻 萬松岳

ん 終 く 木 の 葉 を ち の 山 以 八 皆平

老身終る

何 ゆ 々 也 終 る ハ あ り を 柵 付 水順

古く一年の夜はあけをま
暮れは明け方の白くはる
物より細く

歳旦 旦々

淡及東凡象

梅も夕朝月も日もまの酒あ人

扇内

早暮

仰るる 堰カぬ歩り白油 旋

歳旦

南紀日高

ハ重垣のそハ重垣也 初暮

三者

年尾

と 尚身は付く 知る年の行末

春興

南紀日方

矢船文里

宇久比寸と

沙衣の音也

扇子竹呂



歳旦

南紀

十丈松

鶴下すし樹下あり

ふ川より

年稍

大燧茶鉢 加年より也

仕也

歳旦

南紀 春潮亭

待ゆらん喜ハ事なり移昔中 鶯翠

和舟の吉令雄くも春の春 鶴翠軒 雲山

梅うきハ益きくも小姑妻 柳氏 文泉

歳暮

炭焼の竹白一年仕迄 文泉

行年の末心清し障り縄 雲山

そりの尾法を思ふ物也障の東 小笠原

春興

軒通り人か咲くを春と

車紀

文立

全

月の出る枝は春も梅の花

同所

仙枝

歳旦

梅車枝を万物の花用身

洛陽

五柳

風暮

かきくさくさく春の初風

同柳之軒

てん

春興

聰明者多し瘦を競ふ人霖の花

呂陽

同しと枯の菊可原平

羗古

朝衣の暮も春の要を

萱子

耳露と夕小水も有る

石鼓

吾人こそ飲助洛助玉免近

南兄

けあくやとち此君も春

排子

受は流枝を流る枝の柳紅糸

古

春ハ買つる 便ハ傳世

陽

胆黄ハツヤと云ふ層牙 胃ゆり
二絃の弓 漆と勢兵
清濁編笠紙のゆるゆる
紙子 絃性も併して甚立
云いゆんがし 茶碗の鹽ヒビキ罅
一粒萬倍 總衆の之れ索
旅依形り 衆の 月の裏
磁石のふらふら 雲を附さ
柏葉の 細く小僧と花相撲
弱くとして 我の強き水

鼓子 鼓子 鼓子 鼓子 鼓子

^{ナリ} 性選の明り 夕く 西の
奈波 咲は舞土 翫る
繪の素 才 鼓音の 庵風名
冬も 思ふの 夢人 差く
おろふ 山 互層を 雲中 陸り
星の 砂川 天の 後例
山の 影 松実の 六ひきの 月
草より 雨と 水 岸 五々 延
一角 尺 菴 漆 下 何れ
切 率 石 人 珠 教 と 籟

兄鼓子 兄鼓子 兄鼓子 兄鼓子 兄鼓子

五十二

山の陽 鞆鞆 かしら ち 端 ち ち

日 ち の ち ち 井 語 ち ち

詩 ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち

ち ち ち ち ち ち ち ち

子 ち ち 古 ち ち 子 ち

春興

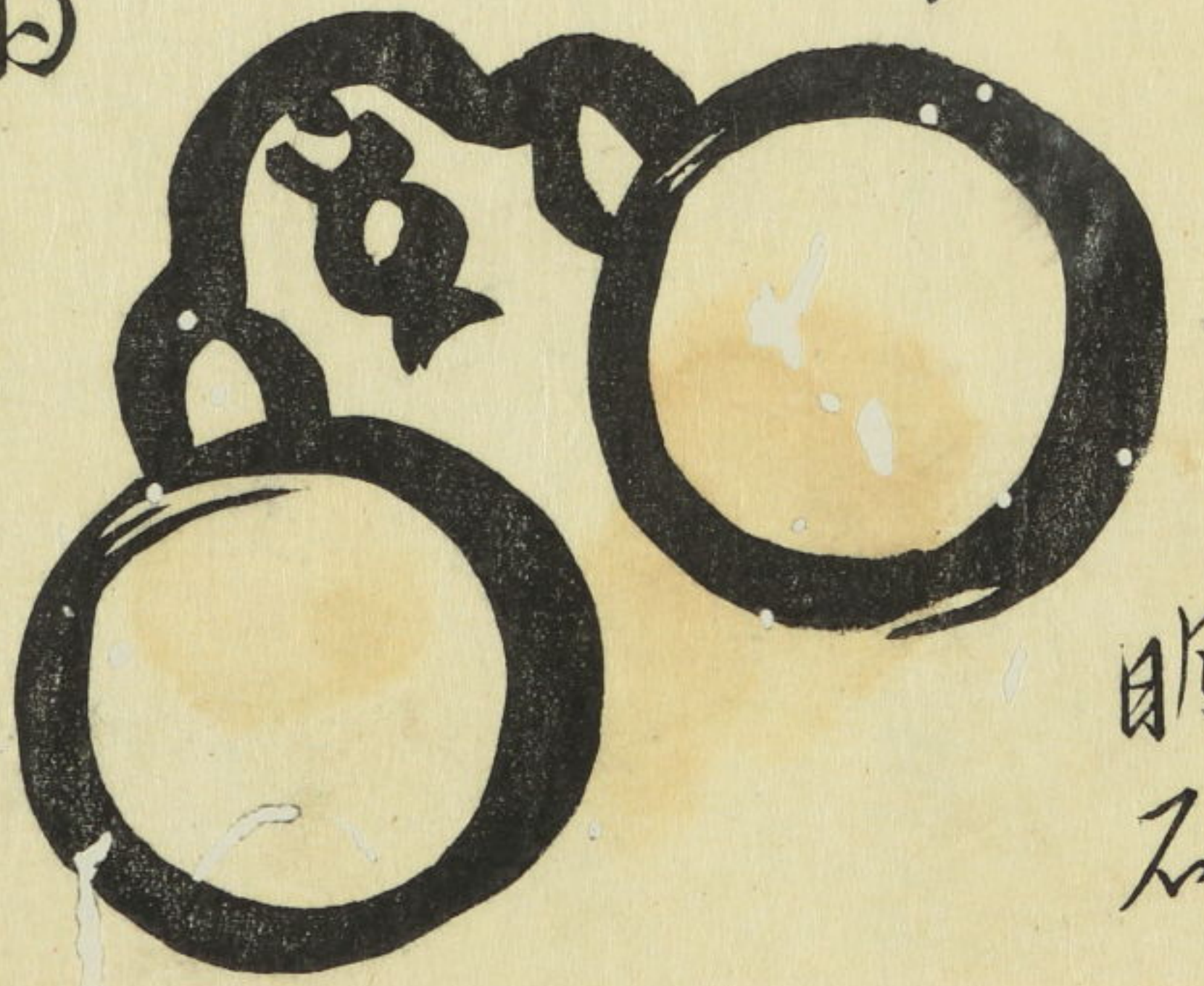
降は淋し

降は淋し

淋し

春

の



明石

其 扇 林 巴 山

年尾任吉社系

園那月門談笑代記の奥

萬翁

高下元日那りひん

以の春田文お那り高の春

固木

久

吾中法流ひよる世平代

玉脚

山平善

山州也太路お島き一の原

連城

山平直

方月談笑ひ思ひお那りお出

一笛

中系

おのるおのるの光りも米流ひ

素一

高

眼八月の途底つらう高善

中系

中

之梅ハ咲くも色ハ事啼は

一見

長い海

兼昌も法流の吟談固るハ

双泉

節ふかたき

新善より高頼を平し赤鶴

花系

人日

孤舟のたゆみく白ふ若菜人

春中

梅

歌々もくすく人日の花

石室

歳暮

豊後岡

阮籍の眼もくすく若菜人

巴雲

夕々唯

紋川の機音す那し房本

三其

編底

百人一首短冊夕房
彫刻よりく

如夢やうくすく若菜の竹簾色くすく

象明

んめ

香とり草何のたすは括つ

金英

正朔

今新斗燈人々那し明物

馬省

春真

舞楸の舟を信りし梅の道

丹積

歳暮

行くは高砂船のありし

高十

さく中

まゝおのれおのれもねましくく

兔式

歳旦

此句梅の秋の
すゝめ

海へ細くは移りて法をたふ

并船

八日

梅老の影を移りて梅の影

時音

春興

花は白く白くは影の移

何怕

歳旦

罪風の衣をくくは影の移

有鳳

急心

養生と一閑とくくは影の移

系唯

歳暮

水くくは影の移を春の影の風

難玉

春興

夕の影の移を影の梅

紫盤

年尾

年の影の移を影の影の影

洛古

毒

梅の影の移を影の影の影

紫峯

春日興

生るる影の移を影の影の影

挿芽

社陽

冊後由二

神多し何はひまはし花の春

池下

山新山も下も花の春

蛸彦

歳暮

鷗もたひしく梅も鷗の山を爪

堀彦

人形もひあまると心のとまぬ

波文

春宵

秋ハ河氷もな梅丸し雛雛

右切

年抄

うい曲は汁はしめの詠ふか

弓州

正へ暇差後山を

天王寺猫の送りも一夜爪

石魚

松

物りし香行り新橋の次を

東弘

早暮

相争もあふま返しの年仗

厚橋

土

海もとり孫おとくし茶山

夷拍

節ふ九日辨り

君も代の春も徳可も福の内

撰撰

守歳

洛 青々

高家の師走めぬと師走那

春柱

早出番 柳心裏 春柱

物乞の能くも春柱 待力

雙鷹

春興

洛 蓮日

活色の茶園也春の物と物

花鈴

人日

伊丹

常より物乞く春の春興

東尾

年尾

九白亭

光しの夜也子星のまも物

舞中

春興

屏 牛尾

多岐 輝の

リ 舞

片の

江戸

ゆき



歳暮

淨厚堂

布衣の翁は医者達也

如瓶

年相

八子坊

後世も来つて首を削る

舎持

威名

三常春

那尔波津也下月平中の首飾り

涉石

妻ぬ

十南斎

茶碗麻子よ首飾りも首飾りあれ

茶當

孫未 行善畧

天真房

春風も吹きて之の中は此女が影

信鳳

歌仙

水仙も化す狐の剃刀も

猪支

六の仲間も梅の奥

贅卿

うを車の茶と形覺紙抄も

萱子

紙得る時の能うある筆

南兄

素紙の月にく月の影白

呂陽

夜は月にくと思ふまゝに

羽六

柏子も神の掬はる秋は禱

東雲

針の穴や持ちよの風

東木

傾城のくろくハ江口には美初め

性山

つゝつゝ髪も有と存く

公文

家語の急ハ折く玉に散

石鼓

木綿羽々如く冬の喜物

一三三

酒樽の如く削る那きりも

一甫

端れきり大悪仕仕

桃子

平愈き矢梢に標も有ゆん

龜洞

幕より舞に甲の尻りみ

龜田

月の本や口より花の影影

序南

聖川の流のちり結一垢

自吹

曝川^{ナラ}四季のあぐれり時^{ナラ}川

君任

棊のヒカ城警者の常標

可山

尼君の旋臨鬼すき何とす

榊枝

きのふは揚のうらや舞

麩春

兼納り張るく通ふ月は色

鳥食

長ふ下り急まる骨肉

除鳳

温石で甚も積押ス峯の古

望洞

若きし頃の垢洗ふ蟬

斐甫

折るは故に真の浦高紀

李光

隣の百里を歩ふも音物

枝極

北國やを曉の霞をるの雨 若山

多の心あり 庭より金草 遠里

三稜今迄の山と云ふは吉を右 翠文

造化の如中ら弄玉の長 湖南

白鷺の網り鳥ややうきん 外橋

富士の狩場へ来て誰か指 乃赤

祐成流時系流の花の若 魚舌

二面鏡の如くうらりり 五ノ

春貞 逸叟

樹々の芽や京終流の 志あるも

延系 龍 泉 且

多田山下

初終や此岸の市は賣平目賣 鮎秋

元朝 言後りれハ 日所

終身ハ屠殺の音は人明の音 梅本

終且心裏中志多ありて 同所

けほのふりやハ七川日加那 志里

口本多

掛くや袋しつちる機嫌忠 鮎秋

全 翠身の多那ハ

相立ハ春實金神丹お此の夜 右里

年尾

故人より 嗚も年のつらき哉

梅十

早良

多田

何事も 何の修のたしめ哉

平九

早良

二合より 年めたきりのしほり

祈るのこゝ 那れハ 終及原本

修りての 於毛の 聖の空舟

瓶泉

早良

七草の 衣帯 祈るを 北の

瓶古

